

三つの連携とブランド・プレゼンス

帝塚山学園理事長 吉川 勝久



年の瀬を迎え、皆様には、新年を迎える準備で忙しいことと存じます。

さて、来年はいよいよ学園の第4次中期計画の一層の具現化・実現に向かう年となります。少子化が

続く中、学園経営は大変厳しい時代に入りつつあります。私は、この厳しい時代を「三つの連携」を強化し、乗り越えていきたいと考えております。

まず、一つは学園内の「教育連携」であります。2歳児教育から大学まで総合学園のメリットを生かし、更なる学校間連携の強化を目指します。そのために、今年4月、学園に「教育連携室」を設け、学園内の教育連携の構築に取り組んでいます。とりわけ、小中の円滑な接続に向けた仕組みづくりを力を入れ、小学校から中学校へ希望する全員の入学を推進しています。

二つ目は、「地域との連携」です。学園前キャンパスは、奈良市西部のシンボルでもあります。地域に愛され続ける学園として、幼稚園、小学校、中等学校、大学のそれぞれが地域と積極的に連携して活動しています。地域の清掃ボランティアや啓発運動への参加、警察署との連携や文化施設、自治体との地域イベントの開催、企業との協働による事業実施など、地域コミュニティの一員としての活動を推進しています。

三つ目は、「保護者、同窓会、卒業生の皆様との連携」であります。数え切れないくらい多くの事業にご理解、ご支援を賜り感謝に堪えないところであります。私は、二代、三代、さらには四代にわたる帝塚山ファミリーの一大形成を図っていかなければならないと考えております。その架け橋としてこの学園広報誌「T・i・t・i・m・e」をご活用いただければと思います。

今後、学園の「ブランド・プレゼンス」を一層高め、変化する時代にも選ばれ続ける学園を目指して教職員一丸となって頑張っております。